

2018年度医療的ケア児支援検討会


2018.7.31

手稻溪仁会病院患者サポートセンター

御家瀬 真由

プロジェクト等活動報告

- 1) 札幌市自立支援協議会
重複障がいに関するプロジェクト
- 2) 北海道看護協会
子育て世代包括ケアシステム推進プロジェクト
- 3) 子ども在宅ケアネットワーク
(Child Homecare Network : CHCネット)



1) 札幌市自立支援協議会 重複障がいに関するプロ ジェクト

プロジェクト設置に至った経緯

-まちの課題整理プロジェクトチームからあげられた課題より-

- ✓ 重複障がい（肢体不自由、知的障がい）をもつ方の通所先や入所先がなかなか見つからない
- ✓ 重心判定や療養判定が付いていないが、状態像はそれに近い人を受け入れてくれる短期入所が少ない
- ✓ 身体・知的の重複障がいのある方がグループホームを探していたが見つからない、また、利便性の良い場所にはない
- ✓ 親と本人が在宅生活を維持できる**重心の短期入所が不足**している
- ✓ **医療型短期入所や医療型デイサービス**が、重心判定がつかないために利用できない
- ✓ **在宅重症心身障がい児・者の支援体制**が不十分

これらの課題を関係
多職種で整理し、
1つでも解決できる
方策を検討したい！

札幌市自立支援協議会

重複障がいに関する課題整理に係る有期プロジェクト

(現「重複障がいに関するプロジェクト；通称、重複PJ」)

【目的】

今課題として上がっている方（寝たきりの重複障がいの方）の医療、介護の現状を知り、課題の交通整理をして、解決に導く

【メンバー構成】

市職員、当事者、家族会代表、病院看護師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、訪問看護師、訪問診療相談員、相談支援専門員、施設相談員、事業所管理者

重複PJの取り組み

—札幌市の重症心身障がい児者を取り巻く実態把握—

札幌市単独事業

H29.4.1現在

- ・地域共同作業所 10カ所 利用登録者延137人
(うち、6カ所に重症心身障がい者支援作業所加算があり、102人の利用登録)

障害者総合支援法

- ・生活介護 125カ所 定員3,630人 月利用者数 4,538人
(27.8.1と比べて、5カ所増、定員135人増)
- ・療養介護 2カ所 定員344人 月利用者数 298人
- ・短期入所 67カ所 月利用者数 591人 (27.8.1と比べて、2カ所増)
※利用者数はH27年3月分の実績(障がい者プランより抜粋)、カ所数・定員はH28.8.1現在
- ・居宅介護事業所 503カ所 うち重度受入可能と回答した事業所 70カ所
※アンケートの送付先は474カ所
- ・重症心身障がい者受入促進事業
生活介護、短期入所、共同生活援助、児童発達支援・放課後等デイサービスへの看護師配置に対する人件費の一部補助。一昨年から対象者を拡大。
- ・重症心身障がい児者地域生活支援事業
(短期入所における医療機器等の購入及び設備整備)

医療

- ・訪問看護ステーション 149カ所
(前年比14カ所増)
* 重症心身障がい児者受入実績51カ所、利用者111人、うち18歳未満の利用者数70人
* 今後の予定を含むと77カ所、パンフ協力OKは25ヶ所)
- ・訪問診療：生涯医療クリニック
- ・病院(外来、入院)
ゴドモックル、手稲溪仁会、天使、北海道医療センター、NTT、KKR、北海道大学、札幌医科大学
- ・医療機関でのレスパイトの現状聞き取り
定山溪病院

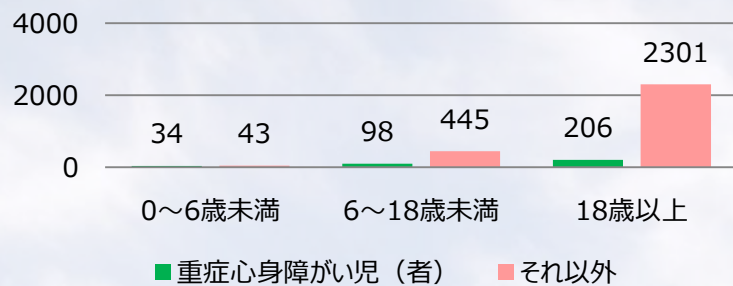
重度心身障 害の判定を受 けている人数	<u>18歳以上</u>	<u>18歳未満</u>
在宅	<u>333</u>	<u>192</u>
入所	<u>309</u>	<u>23</u>

平成26年11月での札幌市内で重心判定を受けている方

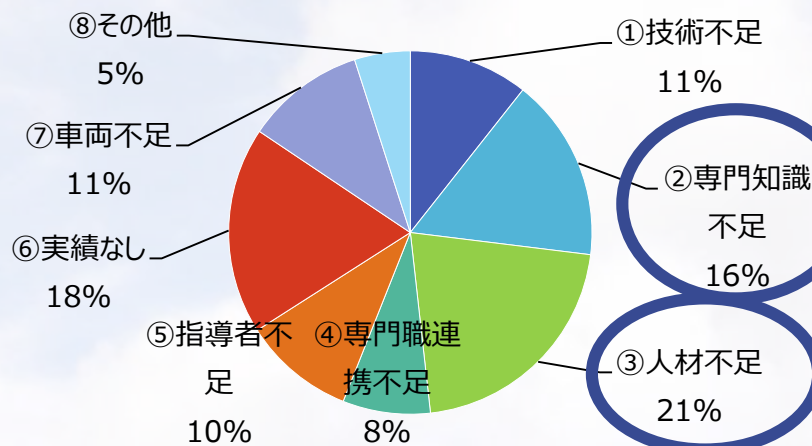
居宅介護事業所へのアンケート調査 2015.5

回答率：24.8%

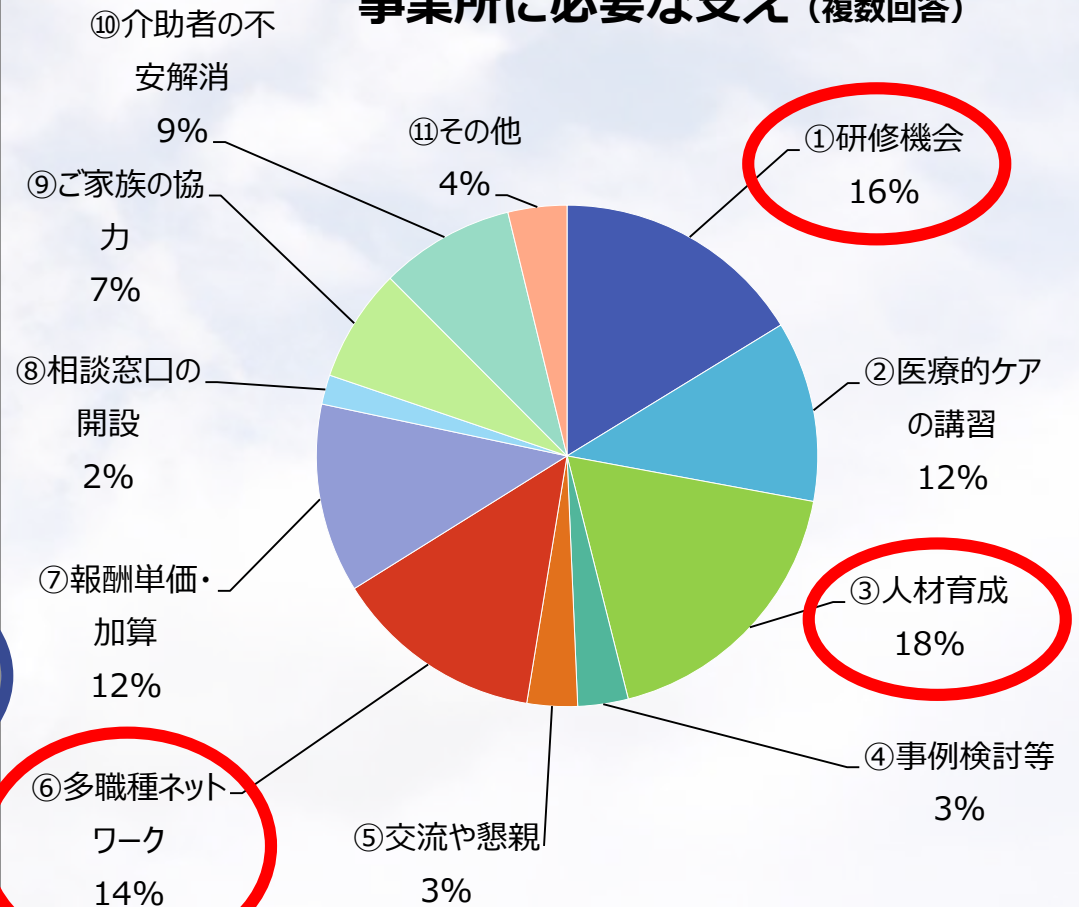
利用者の内訳



重症心身障がい児（者）にサービス提供していない理由

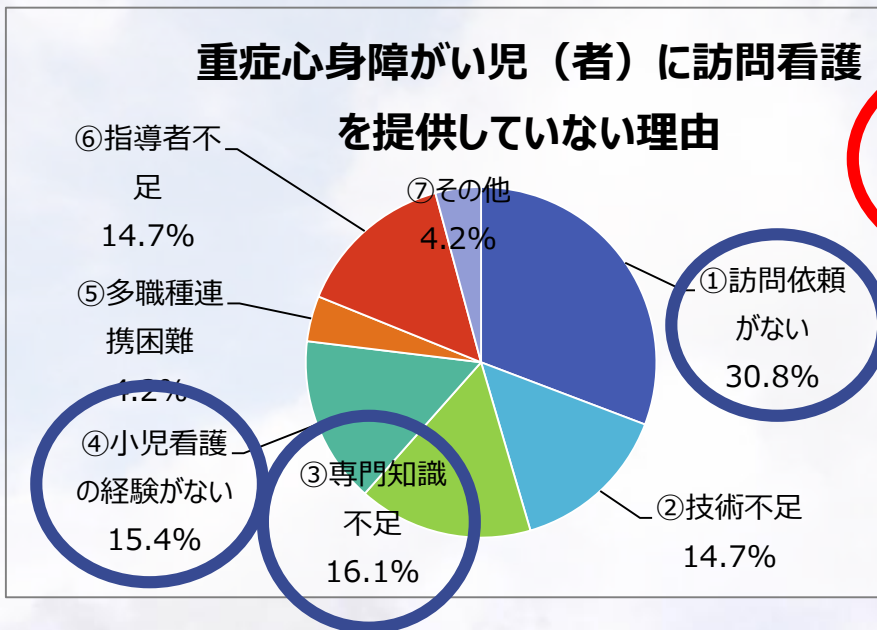
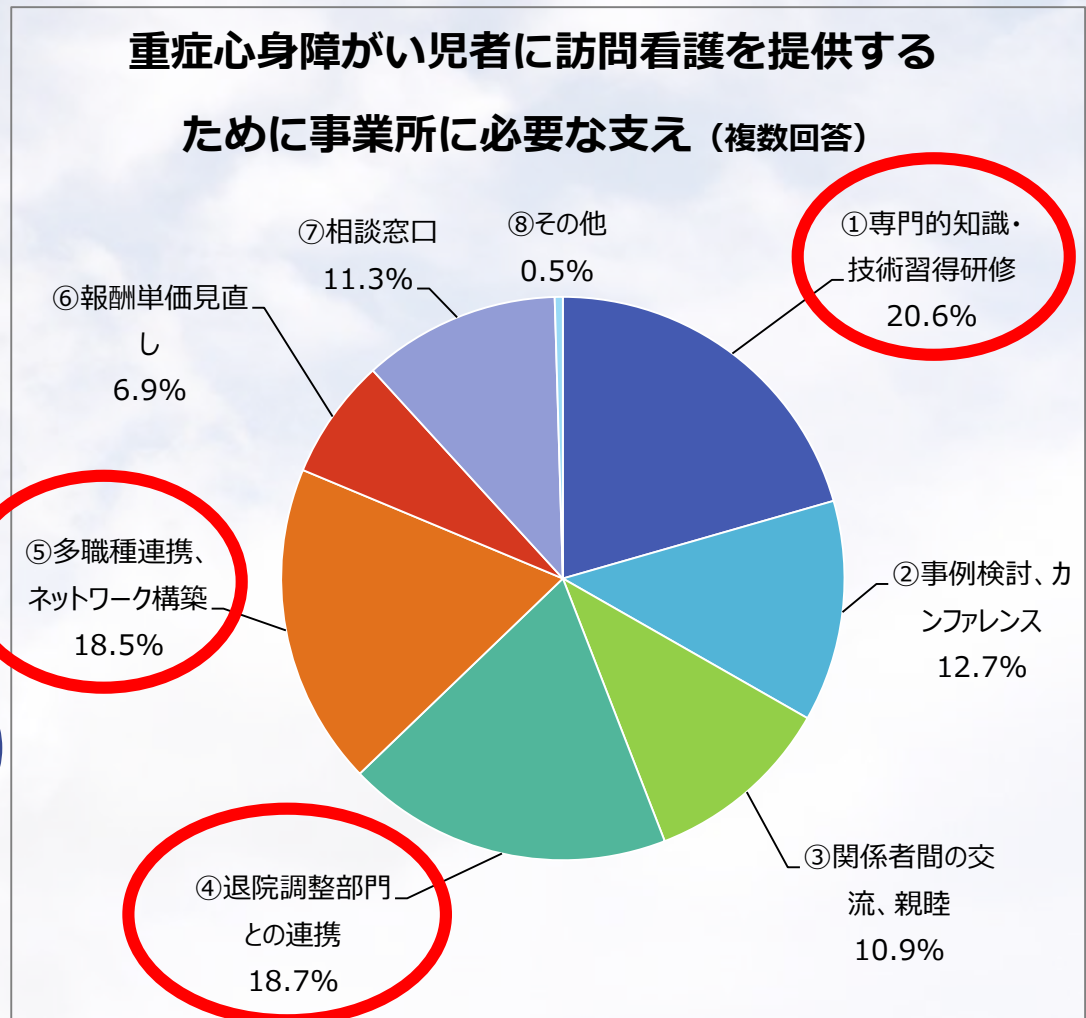
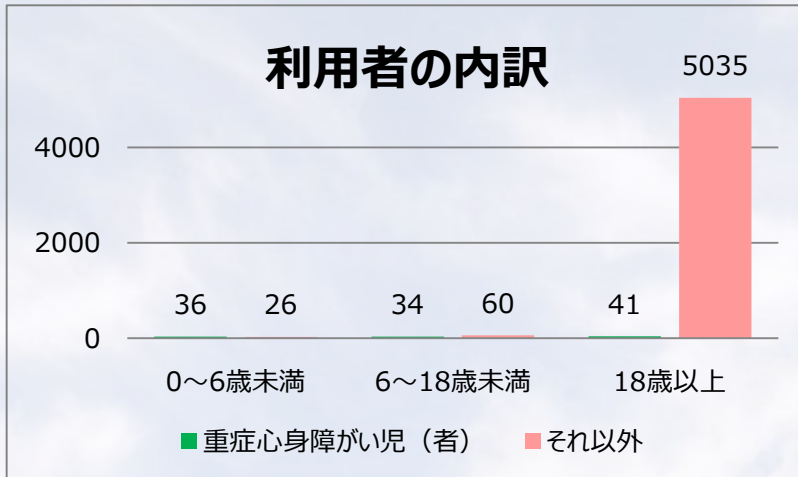


事業所に必要な支え（複数回答）



訪問看護ステーションへのアンケート調査 2015.10

回答率：82.4%



札幌訪問看護ステーション・札幌市自立支援協議会 共催研修 H28.10.18開催

目的

『訪問看護ステーションに、日常的に医療を必要とする重症心身障がい児者の在宅医療の現状、ご家族のニーズ等を伝えると共に、関係機関の連携強化を図ること』

重症心身障害児（者）の在宅生活を支えるために

札幌市自立支援協議会
重複障がいに関する課題整理に係る有期プロジェクト

平成28年10月18日（火）
札幌訪問看護ステーション協議会・札幌市自立支援協議会 共催研修
～重複障がいのある方々の支援の充実に向けて～

NICUを取り巻く状況①

- ・北海道の人口動態にみる出生状況
- ・道内の出生数は少子化の進行により昭和63年に比べ4割近く減少
- ・特別な医療が必要な低出生体重児等ハイリスク児の出生率は増加傾向

道内の出生数と低出生体重児数(2,500g未満)の推移

必要ない要因

長期人工換気患者
ない理由

希望なし	18%
収入不良	20%
職探し	7%

①がご家族や家庭環境、地域のサポート体制の問題
②が病室の在り方の検討！(田村 正徳)

内容

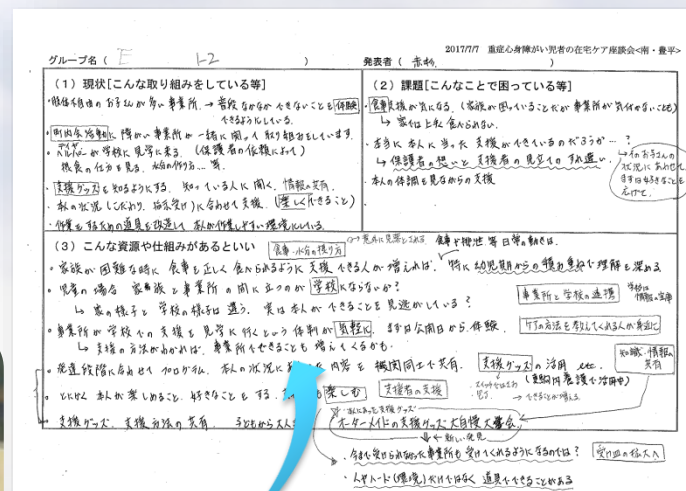
- ①小児等在宅医療の概要
(重複PJの行政担当者)
- ②小児等訪問看護の現状
(小児専門の訪問看護師)
- ③小児等訪問看護を経験して
(小児以外を中心に実施している訪問看護師)

重症心身障がい児者在宅ケア座談会

— ‘ずーっと地域で暮らし続ける’を支えるために—

目的

『重症心身障がいにテーマを絞って、多職種が地域ごとにごちゃ混ぜに集まることを通して、地域における重症心身障がい児者の現状、課題について知り合う機会を持ち、顔の見える関係づくりと個々人のための支援体制を構築していくキッカケづくり』



課題や現状の他、
「こんなものがあれば良い！」
も語り合う！

課題の整理

アンケートや座談会の中から課題を抽出し、整理
4現象にまとめた
(資料2)

○ 重複障がいプロジェクトにおける課題整理

		第1象限	第2象限	第3象限	第4象限
障害程度		重複障害		重複障害	
年齢		成人		成人	
医ケアの有無		医療的ケアなし		医療的ケア有り	
通所系サービス	利用サービス	・生活介護 ・就労支援 ・作業所	・生活介護 ・就労支援 ・作業所	・児童発達支援 ・就労支援 ・作業所 ・デイケア ・幼稚園 ・保育園	・児童発達支援 ・就労支援 ・作業所 ・デイケア ・幼稚園 ・保育園
	課題	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない
	課題の背景	人材不足 重複障害への経験・知識不足 移動支援が利用できない	人材不足 重複障害への経験・知識不足 医療的ケアを伴う送迎が困難 医療的ケア提供できる人材の不足 看護師不足	人材不足 重複障害への経験・知識不足 移動支援が利用できない	人材不足 重複障害への経験・知識不足 医療的ケアを伴う送迎が困難 医療的ケア提供できる人材の不足 看護師不足
	解決の方向性			児童発達支援センターの利用の充実	児童発達支援センターの利用の充実
訪問系サービス	利用サービス	・居宅介護 ・重度訪問介護 ・PA制度 ・訪問入浴サービス	・居宅介護 ・重度訪問介護 ・PA制度 ・訪問入浴サービス ・訪問看護	・居宅介護	・居宅介護 ・訪問看護
	課題	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない
	課題の背景	人材不足 重複障害への経験・知識不足	人材不足 重複障害への経験・知識不足 医療的ケア提供できる人材の不足	人材不足 重複障害への経験・知識不足	人材不足 重複障害への経験・知識不足 医療的ケア提供できる人材の不足
	解決策				
レスパイト	利用サービス	・福祉型短期入所	・医療型短期入所 ・レスパイト入院	・福祉型短期入所	・医療型短期入所 ・レスパイト入院
	課題	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない レスパイト入院が制度上認められていない	利用できる事業所が少ない	利用できる事業所が少ない レスパイト入院が制度上認められていない
	課題の背景	人材不足 重複障害への経験・知識不足	人材不足 重複障害への経験・知識不足 医療的ケア提供できる人材の不足 看護師不足 報酬単価の低さ	人材不足 重複障害への経験・知識不足	人材不足 重複障害への経験・知識不足 医療的ケア提供できる人材の不足 看護師不足 報酬単価の低さ
	解決策			児童発達支援センターの利用の充実	児童発達支援センターの利用の充実
地域生活	利用サービス	・グループホーム ・入所施設	・グループホーム ・入所施設	・特別支援学校 ・普通学校特別支援学級	・特別支援学校
	課題	利用できる制度が少ない	利用できる制度が少ない		母親が社会復帰できない
	課題の背景	制度の必要性に対する社会的認知度の低さ	制度の必要性に対する社会的認知度の低さ		利用できる通所系サービスが少ない 教育機関での付添が必要
	解決策				

重複PJとしての意見書作成

-さっぽろ障がい者プラン2018への提言-

『4つの提言』

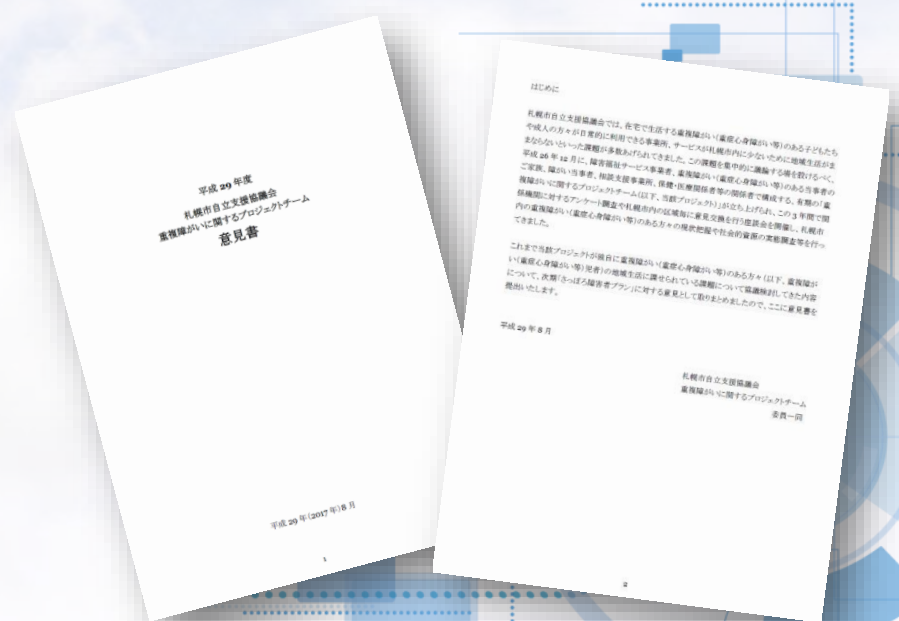
- 1) 人材の育成を図る事業設計が必要
- 2) 訪問看護師並びに喀痰吸引等研修を修了した介護福祉士等の派遣や加算の創設等、柔軟な制度設計の検討
- 3) レスパイト目的及び緊急避難目的それぞれの支援体制の整備
- 4) 地域生活の拠点整備に関する中長期的な計画のもとでの制度設計

事業領域が「プロジェクト」の整理に関する結果

心身障害者福祉プロジェクトとしての重点課題

事業領域	重点課題	重点課題	重点課題	重点課題
居宅サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス
訪問サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス
レスパイト	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス
地域生活	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス	利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス 利用サービス

※重点課題の整理は、事業領域ごとの重点課題を抽出し、重複する課題を統合し、重複しない課題を抽出した結果です。
 ※重点課題の整理は、事業領域ごとの重点課題を抽出し、重複する課題を統合し、重複しない課題を抽出した結果です。
 ※重点課題の整理は、事業領域ごとの重点課題を抽出し、重複する課題を統合し、重複しない課題を抽出した結果です。



今後の課題・活動

‘ずっと地域で暮らし続ける’
を支える活動を！！

課題

- ・重症児者ケアに関する知識・技術の不足
- ・人材不足

- ・研修会の開催→どこが主催となるか
- ・目的と対象者の検討（知識の普及、人材育成等）

- ・専門職間の連携不足

「つながる機会」の提供

- ・座談会の継続→どこが主催となるか


- ・一本化された相談窓口がない
- ・現状把握がされていない
- ・情報発信窓口がない

「相談できる場」の確保

- ・基幹的によろず相談ができる場の必要性
- ・アンケートによる再調査
- ・情報の取りまとめと発信の必要性
- ・訪問看護ステーション等のリーフレット作成

- ・医療的ケア児支援検討会との役割分担

- ・対象者をしぼって検討すべきか
- ・活動目標に合わせたメンバー構成の再検討



2) 北海道看護協会 子育て世代包括ケアシステム推進 のためのモデル事業

2015年 看護の将来ビジョン

「地域包括ケアシステムは療養する高齢者だけではなく、子どもを産み育てる人々、子どもたち、障がいのある人々などを含む全ての人々の生活を地域で支える」

2016・2017年度より『子育て世代包括ケアシステム推進のためのモデル事業』がスタート
2016年度6県、2017年度1府3県と北海道



北海道看護協会での活動 2017.8始動

医療的ケア児支援の専門施設が集中している札幌市において、在宅療養支援を含めた支援者ネットワークの必要性は高まっている。まずは、看護職間のネットワークをつくりたい！

目的

『札幌市内の療育支援に係る看護職のネットワークをつくる』

子育てPJ（通称）の参加メンバー（10名）

重症児者施設、札幌市保健所健康企画課、保健福祉部健康・子ども課、市立病院、北大病院、手稲溪仁会病院、こどもつくる、訪問看護STくまさんの手、看護協会職員

これまでの取り組み

- 1) 地区別会議で各領域の看護の理解
- 2) 事例検討会（急性期病院、施設、在宅の事例での検討） 3回実施

効果的な事例検討会 -5つの要素と3つの特徴-

-5つの要素-

①積極的参加

・参加者1人1人が、知識と経験を持ち寄り、自分の担当事例として考え、積極的に参加する。

②体験共有

・参加者が、一つの事例を通して、情報整理、アセスメント等の一連のプロセスの体験を共有する。

③協働

・協働作業(板書を用いた思考の整理)を通して、参加者全員が、納得・合意しながら事例検討会に参加する。

④創造

・本人・家族を中心に考え、新しい視点から具体的な支援策を生み出す。

⑤学習

・事例検討のプロセスを学び、学びを得ると共に、

効果的な事例検討会 -5つの要素と3つの特徴-

-3つの特徴-

★情報整理のプロセスを重視する

・事実に基づいてアセスメントするために、事実と想像を分け、何が不明なのか、今後必要な情報は何かを整理する

★アセスメントを言語化する

・参加者全員でアセスメントを行い、全員が発言する
・上司部下の関係性等で発言するのではなく、共に考えるパートナーとして事例を共有する

★具体的な支援と役割を決定する

・誰が、いつまでに、何をするのかを明確にする
・支援策が多岐に渡る場合は、優先度を決める

公益社団法人 日本看護協会



これからの取り組み

課題

- ・ケアの質や継続性に焦点を当て、札幌市における看護職ネットワークを考える必要性
- ・入院時から退院後の生活を見据えた退院指導の必要性
- ・医療と自立支援や福祉サービス等の様々な情報を集約・調整できるセンター的存在の必要性

事例検討会の中から、必要なネットワークの形をプロジェクトチーム間で確認し、共有していく

また、必要なネットワークをどこに機能を位置づけるのが良いかについても検討する



3) 子ども在宅ケアネットワーク

子ども在宅ケアネットワーク (Child Home Care Network)



◆目的

医療的ケアを必要とする子どもたちの在宅ケアの連携を築き、職種の垣根を越えて情報交換の場を提供することで、地域の小児在宅ケアの充実を図ります。

今年度、
さぼーとほっと基金を受けます！



◆他施設（20施設）多職種に参加

病院看護師・訪問看護師・MSW・病院セラピスト・訪問セラピスト・保健師・医師・歯科医師・薬剤師・チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）・相談支援専門員・市職員・児童相談所職員・養護学校教員および看護師・保育士・介護福祉士・大学教員・一級建築士・福祉用具専門相談員・車いす制作業者

当院看護部HPより↓

<http://www.keijinkai.com/teine/kangobu/network/>



連携の実際



ID:	名前:	受け持ち No.:	主治医:
Nc	方法性(統一) (重要決定)	在宅療養支援の調整(在宅療養)	在宅への移行
	患者・家族の情報をいれたい全体像を把握し、患者・家族に必要な医療資源や医療サービス調整、物品や器材など確保・物販費での準備を行う	患者・家族に合った中々の支援を提供するとともに、医療者と連携して必要なサービス調整、物品や器材など確保・物販費での準備を行う	退院に向けた最終的な確認・調整を行い、患者・家族が不安なく在宅療養へと移行できるよう補助する
Nv	退院前準備、患者・家族のアセスメント、電子カルテ療養支援メニュー	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
	退院前準備、患者・家族のアセスメント、電子カルテ療養支援メニュー	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
Nt	センター連携するが、役割分担	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
Dc	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
MSW	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成
	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成	退院前準備の作成(退院前準備シート)の作成



Key Wordは「つなぐ」

*重複PJは'ずっと地域で暮らし続ける'を支えるために「**学ぶ**」「**つながる**」「**相談できる**」

*子育てPJは看護ネットワークを構築するために（課題や情報を）「**共有する**」

*CHCネットは「**学び**」「**つながり**」子どもを支えるチームをつくる



ご清聴ありがとうございました